

2023 年初級登山教室 実技・沢登り I

日時 7月23日(日)

場所 比良 白滝谷 坊村～牛コバ～夫婦滝～坊村

目的 沢登り実技

参加者 スタッフ N 森(講師 CL)・ K 口(SL) ・ T 本・ Y 田・ S 口・N 村・S 水

受講生 Y 元り・Y 元あ・ S 古(記録)

通過タイム 坊村8:00～9:20 牛コバ入渓～白石谷出合～12:30昼休憩～14:30夫婦滝～15:00下山開始
17:30-坊村

講習内容

- 1 集合場所駐車場にて自己紹介
- 2 牛コバで、沢装備準備
- 3 斜滝・ナメ滝など遡行。深いところは一部泳いだところもあった。最後は18mの滝を、スタッフ二人が先行し、滝の終了点の岩に支点を取り、ロープをムンターにして1段目まで講習生を上げる。2段になっているため、さらにその上で別のスタッフが、スリングで講習生を確保し、終了点まで上げる。
- 4 登山道を下山。途中ハチの大群を避けて、登山道を外して迂回。
- 5 沢は高巻きの技術も必要。クライミングの技術も必要。セカンドの人はロープをたるませないこと。たるませた分、落ちると危険。滑りやすい岩を上がる時、まっすぐ上がろうとせず、手でささえ足をつっぱって、足に体重をのせて上がるとよい。スメアリング・フラットフィッシングを意識するとまさつの作用で滑りにくくなる。

スタッフ 一口感想

沢はワイルドで色々変化もあり面白いのですが、その分リスクも大きくなります。特に尾根道と異なるのは、足場やホールドが不安定なこと、滑りやすいこと、水に流されたり溺れたりする危険があること等、不確定要素が多いことだと思います。それらに対処するためには、十分な知識を持ち、「もしここでこんなことが起こるとどうなるか？」を常に予測しながら、確信の持てる範囲で動くことです。チャレンジするよりも、楽しいと思えるレベルの沢で経験を重ねると、安定感が身につくと思います。登り方について少し補足しておく、平らな面でもよく見ると引っ掛かりのある窪みがあったり、水中にもいい手掛かり・足掛かりがあったりするので、落ち着いてよく探ってみること、またどの方向にどう力を掛けると安定するか、常に考えながら手足を動かすことを心がけると、意外にすんなりと乗り越せるかもしれません。なお、今回下山中に前のパーティが蜂に襲われ、高巻きしてルートを迂回しなければならない事態になりました。沢に限りませんが、山ではそういったことも念頭に置いておく必要があると思います。(N 森・CL)

梅雨が明け天候も水量も安定した中で実施できたと思います。人数が多いので(スタッフの方が多かった) 遡行するのが大変かな?と思いましたが、受講生の皆さんもサクサクと上がられて、先頭を歩く身としても安心して見る事が出来ました。あとは際どい所でのホールドや立ち込みを数をこなしながらマスター出来ればと思います。楽しかったです。(K 口・SL)

今回の白滝谷は好天のもと、とても歩きやすい沢登り実技だったと思います。一歩ずつ足下を確かめながら進むことや滝を登る時の足の置き方なども基本的なことを経験するのに適していたと思います。しばらく待機している時など寒く感じる人もいたようでしたが、メンブレン素材のタイツなどはわりと防寒によいと思いました。(むしろ他の行動時に暑いくらい) 時間は少し遅れましたが、余裕のある山行で事故やけがもなく楽しい沢登りを経験できました。皆さんありがとうございました。(T 本)

夏はやっぱり沢に限る!

この時期の里山は暑すぎて山歩きはつらいけど、溪流の遡行なら涼やかで爽快な山行になる。

沢登りの魅力はその清涼感だけではなく、人工物のない原始の自然を満喫できること、スリリングでアドベンチャー的な探検気分を味わえること。今回はそういった沢登りの醍醐味を十分に楽しめた。

受講生のみなさん、比良や鈴鹿には沢登りルートがいっぱいあります。どんどん行って経験を積んで立派な沢ヤになってください。(Y 田)

昨年の受講に続き 2 回目の沢登り。なかなか経験することが難しいので、良い経験をさせていただきました。前回より水量も多く難しく感じました。周りの様子を見て、もう少し余裕をもって取り組めるようにしたいです。(S 水)

昨年の初級登山教室の実技で沢登りを経験させていただき、今回で 2 度目です。掴む所、足を置く所、上手く見つけられず何度か滑りました。また、待っている間に体が冷えてしまい、思うように動けなかったり。防寒対策も考えないといけないと思いました。(N 村)

昨年の教室の卒業生スタッフとして、力不足ながら参加させていただきました。

白滝谷は以前初めて沢登りを体験した場所でしたが、天候や水量によって、沢の印象が随分違うと感じました。流れて底が見えない時にしっかり足で探ることや、苔が少なくて滑りにくいのはどういう場所かなど、机上ではわかりにくい感覚を少しずつ思い出せました。夏ならではの醍醐味ある大好きな活動ですが、常に危険が伴う(蜂も!) こともあり、基本を復習できる機会でした。ありがとうございました。(S 口)

受講生 一口感想

すごく楽しみにしていた沢登りは、想像以上に難しく自分の認識の甘さに反省しました。苔のついた岩はつるつる滑り足がかけられず、水流に押し戻され、夫婦岩の手前の 18M の滝はまっすぐに進もうと挑戦しましたが、太刀打ちできませんでした。経験を積んで技術を磨き、滝と会話しながら完登できるように頑張りたいと思います。

(Y 元り)

初めての沢登りは約 9 時間の長丁場の山行でしたが、疲れは感じず感動と興奮で終わった 1 日でした。これくらいの滝なら行けそうと軽い気持ちで入るも、水流の激しさと重さに体が持っていかれ前に進めず、足も重たくて上からず手で足を持ち上げて岩に乗せると、バランスを崩さないように腕をいつも以上に酷使し、川のシャワーを浴びて気持ちよく進めると想像していた沢登りとは全く違っていました。高巻きは楽な迂回道のことだと思っていましたが、ほぼ直角ではと思うようなところを木の根っこや僅かに出てる岩を掴みながら注意深く登り降りしたりと、こちらもなかなかハードでした。危険は多いけれど楽しく進んでいけたのはスタッフの方の体を張った安全対策と数々のフォローのお陰です。本当にどうもありがとうございました。(Y 元あ)

久しぶりの沢でした。前日に装備を準備しながら、なるべく滝は巻きたい、滝から落ちないか、滝つぼでおぼれないか、と、内心、不安をかかえながらの入渓。ヘルメットは何回も確認し、最後まで緊張した 1 日でした。途中、やさしい沢の流れのところは、水の冷たさが心地よく、景色を楽しむ余裕もありました。そんなときは、夏ならではの沢歩きをしっかりと楽しむことができました。最後の滝は、上からロープを出してもらわなかったら、到底登ることができなかったです。ロープなしで滝をスイスイと先行されるスタッフの方とは技術が雲泥の差だな、と改めて思い知りました。また、遡行が終了し、下山する道は登山道の幅がせまく、気をゆるすと、滑落しそうでした。さらに、ハチを避けるため、高巻きした道も、沢まで落下しそうで緊張の連続でした。もし登山道がぬれていたら、さらに危険。最後まで気

のぬけない 1 日でしたが、なんとか怪我無く下山でき、達成感を味わえました。(S 古)

